

厳しい時代ときだからこそ、もっと「ぎよさい」を

～ 自然災害のみならず、予期せぬ災害への備えとして ～

全国の皆様、新年あけましておめでとうございます。

平成20年の皆様のご健康とご多幸を心からご祈念申し上げます。本年も「ぎよさい」に変わらぬご支援とご愛顧をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

昨年は、台風、赤潮等の自然災害は例年になく少なかったものの、特に前半は燃油高騰の影響が全国の漁業経営を直撃しました。わが国漁業の存続をも脅かす状況の中、国は全国漁民の強い要望を受け、7月の燃油高騰水産業緊急対策に続き、10月には総額600億円の補正予算措置を講じたところです。その後、年末にかけて燃油価格は落ち着きを見せていますが、今後の動向は依然不透明といった状況です。

一方、後半は米国の金融破綻を契機とした100年に一度と言われる世界的な経済危機が現在も進行していますが、需要の減退、円高等による影響が魚価低迷を引き起こすという形になりつつあり、漁業のみならず国全体がこれまでにない不安感の中で年が明けました。政治不況という言葉も取り上げられる中で、個人が講ずることのできる手立てがどれほどの備えとなり得るのか予期することさえ出来かねますが、明確なのは、どんな状況であっても自らの漁業経営を自らが守ることが必要であるということです。

「備えあれば憂いなし」と言います。こうした厳しい時代だからこそ、自然災害のみならず予期せぬ災害への備えとして「ぎよさい」を有効活用していただきたいと思います。本年は丑年ですが、牛のごとくゆっくりであっても、一步一步着実に目標に進んでゆけるような充実した一年であればと願っております。「ぎよさい」にとって、平成21年度は制度改正の年となります。また、漁業共済基盤強化事業の後継事業「漁業共済経営環境変化特別対策事業」のスタートも予定されています。さらに、4月からは新たな全国推進運動の展開を予定としているなど、盛り沢山の1年となります。それぞれの内容については、詳細が決まり次第ご案内させていただきます。

最後に、平成20年12月末の実績は共済金額で3,054億円と、「ぎよさい」史上最高であった昨年同期を約20億円上回る状況となっておりますが、前述したような厳しい状況下、皆様のご努力で契約を繋げていただいた結果だと認識しております。

平成18年度よりスタートした「浜を守る！ぎよさい総加入運動」も残り3ヶ月を切りました。第4四半期には、前年度実績で約1,000億円の契約が残っていますが、計画目標の達成に向けて共済団体一丸となって取り組んでまいりますので、関係者の皆様の暖かいご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。